



平成23年3月期 第1四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成22年7月29日

上場会社名 東京日産コンピュータシステム株式会社 上場取引所 JQ  
 コード番号 3316 URL <http://www.tcs-net.co.jp>  
 代表者 (役職名)代表取締役社長 (氏名)齊藤 学  
 問合せ先責任者 (役職名)経理部長 (氏名)赤木 正人 TEL (03)5466-5530  
 四半期報告書提出予定日 平成22年8月13日 配当支払開始予定日 —  
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無  
 四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 平成23年3月期第1四半期の連結業績(平成22年4月1日～平成22年6月30日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
23年3月期第1四半期	1,731	30.9	45	—	46	—	29	—
22年3月期第1四半期	1,323	△48.3	△104	—	△103	—	△128	—

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
23年3月期第1四半期	2,313 88	— —
22年3月期第1四半期	△10,214 86	— —

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
23年3月期第1四半期	2,961	1,474	49.8	116,993 66
22年3月期	3,083	1,478	47.9	117,345 26

(参考) 自己資本 23年3月期第1四半期 1,474百万円 22年3月期 1,478百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
22年3月期	— —	0 00	— —	2,500 00	2,500 00
23年3月期	— —	— —	— —	— —	— —
23年3月期(予想)	— —	0 00	— —	2,500 00	2,500 00

(注) 当四半期における配当予想の修正有無 : 無

3. 平成23年3月期の連結業績予想(平成22年4月1日～平成23年3月31日)

(%表示は、通期は対前期、第2四半期(累計)は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
第2四半期(累計)	3,370	16.5	50	—	50	—	20	—	1,587 30
通期	7,220	△4.7	235	60.8	235	56.0	120	483.6	9,523 81

(注) 当四半期における業績予想の修正有無 : 無

4. その他（詳細は、【添付資料】P.4「その他の情報」をご覧ください。）

(1) 当四半期中における重要な子会社の異動 : 無

(2) 簡便な会計処理及び特有の会計処理の適用 : 有

(注) 簡便な会計処理及び四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用の有無となります。

(3) 会計処理の原則・手続、表示方法等の変更

① 会計基準等の改正に伴う変更 : 有

② ①以外の変更 : 無

(注) 「四半期連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項等の変更」に記載される四半期連結財務諸表作成に係る会計処理の原則・手続、表示方法等の変更の有無となります。

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）

23年3月期1Q	12,600株	22年3月期	12,600株
② 期末自己株式数	—株	22年3月期	—株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	12,600株	22年3月期1Q	12,600株

(※ 四半期レビュー手続の実施状況に関する表示)

- ・この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、四半期財務諸表に対する四半期レビュー手続を実施中です。

(※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項)

- ・本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、四半期決算短信（添付資料）3ページ「連結業績予想に関する定性的情報」をご覧ください。

## ○添付資料の目次

1. 当四半期の連結業績等に関する定性的情報	2
(1) 連結経営成績に関する定性的情報	2
(2) 連結財政状態に関する定性的情報	2
(3) 連結業績予想に関する定性的情報	3
2. その他の情報	4
(1) 重要な子会社の異動の概要	4
(2) 簡便な会計処理及び特有の会計処理の概要	4
(3) 会計処理の原則・手続、表示方法等の変更の概要	4
3. 四半期連結財務諸表等	5
(1) 四半期連結貸借対照表	5
(2) 四半期連結損益計算書	7
【第1四半期連結累計期間】	
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書	8
(4) 継続企業の前提に関する注記	9
(5) セグメント情報	9
(6) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記	10

## 1. 当四半期の連結業績等に関する定性的情報

## (1) 連結経営成績に関する定性的情報

当第1四半期連結累計期間におけるわが国経済は、企業収益に改善の兆しが見え始め、設備投資の下げ止まりが見られるものの、依然として雇用環境は低迷しており、個人消費は厳しい状況で推移いたしました。

当社グループの属するIT業界におきましては、ITベンダー間の激しい競争によるIT商品の低価格化が進む中、顧客のIT投資に回復の兆しが見え始めたことにより、国内市場は緩やかながら上向きに転じてまいりました。また、人材派遣業界におきましては、雇用状況の悪化を反映し、派遣契約の継続契約の取りやめ等により、企業環境は依然厳しい状況で推移してまいりました。

このような状況のもと、当社グループは「情報化ライフサイクルサポーター」として、技術の優位性、業務の卓越性、顧客対応力を強化し、顧客にとってのベストソリューションを提供することにより、より付加価値の高いビジネスを展開し、新規顧客の獲得と既存顧客との取引拡大を軸に、受注高の確保とサービスビジネスの拡大を目指した営業活動を行ってまいりました。

この結果、当社グループの当第1四半期連結累計期間の経営成績は、売上高1,731百万円(前年同期比408百万円増、30.9%増)、営業利益45百万円(前年同期は104百万円の損失)、経常利益46百万円(前年同期は103百万円の損失)、四半期純利益29百万円(前年同期は128百万円の損失)となりました。

報告セグメント別の業績を示すと、次の通りであります。

## ① 情報システム関連事業

情報システム関連事業は、競合先との激しい競争状態によるIT商品の低価格化が進む中、ハードウェアビジネスから収益力のあるサービスビジネスへとより積極的に展開するとともに、顧客のIT投資が回復傾向にあること等により、売上高は1,348百万円、営業利益は38百万円となりました。

## ② 人材派遣事業

人材派遣事業は、派遣契約の継続契約の取りやめが依然として続いている中、営業部員を増員し、派遣スタッフの増加を目指す営業活動を行うとともに、経費削減努力を行ってまいりました。その結果、売上高は383百万円、営業利益は6百万円となりました。

## (2) 連結財政状態に関する定性的情報

## (資産、負債及び純資産の状況)

当第1四半期連結会計期間末の総資産は2,961百万円となり、前連結会計年度末に比べ122百万円減少しております。これは、主に現金及び預金が380百万円増加、受取手形及び売掛金が513百万円減少したことによるものであります。負債については1,487百万円となり、前連結会計年度末に比べ118百万円減少しております。これは、買掛金が304百万円減少、前受金が126百万円増加したことによるものであります。純資産については1,474百万円となり、前連結会計年度末に比べ4百万円減少しております。これは、主に四半期純利益29百万円計上しましたが、配当による減少31百万円があったため利益剰余金が2百万円減少したことによるものであります。

















